

[シンポジウム1]

石崎家の医療史

石崎 道治

医療法人石崎眼科院長

石崎家は栃木県壬生町通町の蘭学通りにあります。嘉永3～5年（1850～52年）に建てられた母屋、長屋門、土蔵は平成3年（1991年）町指定有形文化財に登録されました（図1）。

さて、石崎家の歴史は約250年前の明和元年（1764年）に初代寿見（じゅけん）が壬生烏居藩の典医頭になったことから始まります。その後現在まで9代にわたって壬生の医療に関わってきました。

初代から幕末までの4代は典医頭であったと伝えられています。4代目の正達（しょうたつ）は天保11年（1840年 32歳）に解剖を行い、解体正図を作成しました（図2）。

典医の5代目誠庵（せいあん）は激動の維新を生き、6代目の鼎吾（ていご）は明治5年（1872年 22歳）、函館医学校にて米国人医師エルドリッジの講義を受けました。明治10年2月におこった西南戦争には5月から従軍し、6月には鹿児島にはいりました。その間、詳細な戦中日記をつけています。（因みに西郷隆盛の最後は9月でした。）その後明治14年（1881年 31歳）壬生町で開業し、下都賀寒川郡医師会の設立に尽力しました。

7代目楚治（たかじ）も日露戦争に従軍するなどしたのち壬生に開業し、従七位勲六等旭日章を授かりました。8代目達（たつし）は太平洋戦争に従軍後、獨協医科大学名誉教授となり、勲四等旭日章を授かりました。9代目道治（みちはる）は壬生にて開業中です。



図1 石崎家

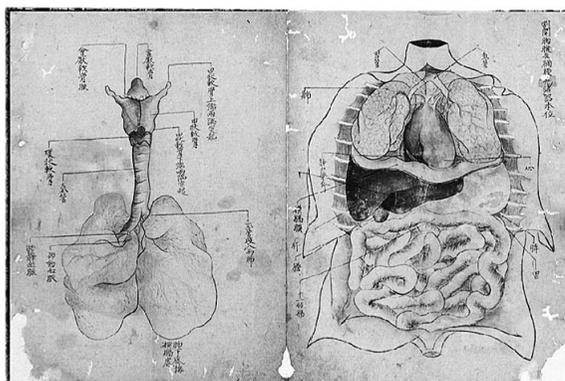


図2 解体正図